

尾山篤一郎 おしやま たかひら 歌人、國文學者、文學博士。明治二十一年十一月十五日石川縣生乳。昭和二十八年六月二十一日歿（二八九一九三）。號刈萱、北澤菫堂主人、尾山秋人、無何亭主人、石齋、竺山人、萱の家、藝林草房主人等。十五歳の折律脚となる。明治四十一年上京。大正二年歌誌『異端』、八年『自然』、昭和十二年『藝林』（二十四年『笠篋』と一時改題）二十六年復題）創刊主宰。二十五年日本藝術院賞受賞。

- 著書 歌集『明の妙』（大正四年二月七日四方堂書店）、『稀本人麿』（大正五年十一月五日抒情詩社）標註日本名歌撰、『旅人一他六歌仙』（大正六年一月五日抒情詩社）標註日本名歌撰、『作歌道講話』（大正六年七月二十二日國華堂書店）、『野々歩み』（大正七年六月二十日東京堂書店）、歌集『まろじゆまげ』（内題「曼珠沙華」大正十年九月十日東京堂書店）、『歌はかうして作る』（大正十一年二月十五日紅玉堂書店）、評註平賀元義歌集（内題「標註平賀元義歌集」大正十一年四月十八日春陽堂）、『處女歌集』（大正十二年五月一日紅玉堂書店）、新編源實朝歌集（大正十二年九月二十日紅玉堂書店）『新釋和歌叢書』（大正十年刊歌集）（二年度）『（共編、大正十二年十月一日關根書店）、『短歌五千講』（大正十四年一月十五日紅玉堂書店）、『短歌新辭典』（附短歌用語索引）詞通解（編・東京短歌研究會、大正十四年二月五日關根書店）、歌集『草籠』（大正十四年四月一日紅玉堂書店）、『萬葉集物語』（大正十四年七月十五日、再刊・昭和四年七月十五日紅玉堂書店）、新『山下徳良歌集』（大正十五年四月二十五日紅玉



堂書活「新釋和歌叢書」(田中道麿助、本居宣長校訂)、『萬葉集問答(附道麿隨筆)』

(赤木報輔共校訂、大正十五年八月五日紅玉堂書活「萬葉學叢書」)

『影繪双紙』(昭和四年八月十日平凡社)、『明治歌壇概史』(昭和

四年八月)二十日紅玉堂書活「紅玉堂文庫」(『鑑賞家家節歌集』(昭

和四年九月)千白素人社書屋、<sup>評</sup>『評平賀正表歌集(改訂本)』(昭

和四年十一月)千白素人社書屋、『短歌論攷』(昭和六年十一月五

日)命館出版部)、『西行法師名歌評釋』(昭和七年一月十五日非凡

閣「和歌評釋選集」)、『作歌道雜誌』(昭和十年十一月)白京都・

人文書院)、『作歌入門』(合著・山本三生編、昭和十一年五月)千

白改活社「短歌作法講座」)、『平明書屋歌話』(昭和十一年九月)

白西書房)、<sup>新</sup>『講短歌の作り方』(昭和十二年六月十日父齋社)、『西

行法師全集(附・西行法師の生涯)』(校註、昭和十二年七月十五

日富山房「富山房百科文庫」)、歌集『雲々描々』(昭和十四年十一

月十日)白書物展堂社)、同『清明』(昭和十七年七月)二十五日大理時

報社)、同『よゝみのすゑ』(内題

「十符の普薦」昭和二十一年十一月十

日新紀元社)、『蕉子文稿』(昭和二十

二年四月)千白靖文社)、『萬葉秀

玉集』(合著・<sup>森本三吉</sup>吉村茂夫編、<sup>高久慶苑</sup>昭和二十

四年九月)二十五日明治書院)、歌集『雪

客』(昭和二十六年一月)千白春秋社)等。

